

第5回向日市総合計画等外部評価委員会 議事要点録

○ 日 時 平成25年1月16日（水）午後2時から午後4時30分まで

○ 場 所 向日市役所 大会議室

○ 出席者

（委員） 中村委員、齋藤委員、香本委員、岡山委員

（説明員）

重点施策	担当部局		出席者	
浸水被害の解消	上下水道部	下水道課	山田課長	長谷川主幹
			尾田担当係長	
平和施策の展開	市民生活部	市民参画課	清水次長	
			天野主査	緒方主査
情報発信と市民意向の施策への反映	市長公室	秘書広報課	水上課長	横山課長補佐
	総務部	総務課	小賀野次長	川島係長
観光資源のネットワーク化	建設産業部	産業振興課	土井課長	長谷川課長補佐
北部新市街地ゾーンの整備	建設産業部	都市計画課	三浦次長	巖島主幹
		市街地整備課	佐藤課長	

（事務局） 物部市長公室次長兼企画調整課長、安田課長補佐、山田主査、上野主査

○ 傍聴者 3名

○ 内 容

1 議 題

（1）重点施策評価に係る説明について

資料「向日市総合計画等外部評価委員会における施策評価の実施について」に基づき、事務局から実施目的及び実施方法を説明した。

（2）重点施策評価

- ①浸水被害の解消
- ②平和施策の展開
- ③情報発信と市民意向の施策への反映
- ④観光資源のネットワーク化
- ⑤北部新市街地ゾーンの整備

【意見の要旨】

①浸水被害の解消

担当者：【施策の概要について説明】

委員：平成15年、20年、22年の床上、床下浸水は同じ家か。

担当者：ほぼ同じ家である。

委員：それに対する対策はどうか。

担当者：浸水した対象の家は地形的に窪地で、一か所に集中しているのではなく、市内に点在している。整備された幹線に雨水を引き込めるよう排水パイプや道路側溝を整備することとしている。

委員：これは京都府の事業か。

担当者：いろは呑龍トンネルは京都府の事業であり、寺戸川1号幹線、石田川1号幹線、石田川2号幹線は向日市の事業である。

委員：石田川2号幹線まで完成しているのか。

担当者：完成している。いろは呑龍トンネル南幹線はこれから京都府が実施される計画である。また、向日市の中でも先ほどの窪地の家に対する対策など、計画的に整備を進める予定である。

委員：施行済み面積などはあるのか。

担当者：向日市では10年確率（10年に1度起こりうる雨：61.6mm/h）で整備を進めている。市内全域において整備が達成されれば、次の段階として、20年確率、30年確率に対する整備を進めていくこととなる。

委員：施策の進捗状況はどうか。

担当者：整備事業費として全体計画で約98億円を計上しており、現在約60億円を投資していることから、割合として約2/3の整備率となります。

委員：予算の執行度合いで進行度が決まるのか。

担当者：事業費が非常に大きく、国からの補助金を活用し、向日市の財政規模を勘案しながら全体の中で進捗度を調整している。本施策は重点施策ではあるが、他の重点施策も含めた中で必ずしも1番になるというわけではない。進捗については、行政運営の中でどの施策を優先していくかを見極めた上で決めていく必要がある。

【仮判定】

委員全員 A

理由：目標が達成されており、浸水被害が以前に比べ顕著に減少しているなど、効果が目に見えて出ていることから。

②平和施策の展開

担当者：【施策の概要について説明】

委員：来場者への告知方法、出口調査を実施したか、来場者の年齢層はどの程度か。

担当者：告知については、広報むこうへの掲載や公民館等の公共施設でのチラシの配布で行っている。年齢層は多い順に、60代が30～40%、70代が約20%、次いで40代、30代となっている。出口調査は実施していないが、入場時渡しているアンケート用紙の中で年齢層の調査をしている。

委員：若年層への啓蒙はどうか。

担当者：平和書道展で「平和」や「ともだち」を題材とした作品を書いていただくことで平和を考えていく機会とし、市民の方にも作品展示により平和のメッセージを受けていただくことで啓発を行っている。

委員：平和書道展を小学4年生に限定している理由は何か。

担当者：授業のカリキュラムの中で調整した結果、4年生となっている。

委員：作品はどのようなものになるのか。

担当者：「平和」「ともだち」「自由」の3点となる。

委員：「平和と人権のつどい」と「平和書道展」は同じ日に行うのか。また、どちらも来場者数が370人と同じであるが、内訳はどうか。

担当者：市民会館で同日に実施しており、必然的に書道展と映画の両方を見ていただくこととなる。

委員：平成22年度以前はどのように市民代表派遣者を募集していたのか。

担当者：広報むこうで、【15歳以上の市民3名】という条件で募集をかけていた。

委員：選定はどのように行っているのか。

担当者：抽選で選定している。

委員：講演会を予定されているが具体的に演者は決まっているのか。

担当者：（平和行動計画）30周年記念事業であるため、より多く方に来てもらえるような演者を選定していきたいと考えている。

委員：アンケートの設問項目は何か。

担当者：アンケートの設問項目は、性別と年代、住まい（物集女町等の大字）、このつどいを知った経緯、参加された動機、感想などである。

委員：平和と人権をどう結び付けているのか。

担当者：平和は戦争を起こさないためであるが、戦争の結果、差別を受けた方もおられたことから、人権とともに平和を考えていくことが必要である。

【仮判定】

委員全員 A（2名）、B（1名）

理由：さまざまな取組を実施している一方、施策の取組成果が市民に反映できるような工夫をしていただきたいことから。

③情報発信と市民意向の施策への反映

担当者：【施策の概要について説明】

委員：ホームページへのアクセス数はどの程度か。

担当者：トップページで約5万件/月。

委員：HPで発信している緊急情報として、節電、熱中症、交通死亡事故多発警報以外にはどのようなものがあるか。

担当者：風疹やインフルエンザ等の感染症に関する情報、台風接近情報等がある。

委員：水害や地震についての情報提供にはどのように取り組んでいるか。

担当者：テレビの緊急速報のようなことは行っていない。防災安全課で電話会社と契約し、有事にはエリアメールの一斉送信を行えるようにしている。

委員：スマートフォンへの対応はされているのか。

担当者：そこまではできていない。

委員：申請書の電子申請の普及率はどの程度か。

担当者：向日市では電子申請はできず、ホームページ上で様式をダウンロードしていただき、持参していただく形となる。ただし、市長への手紙等は電子メールで受け付けられるようにしている。

委員：昨年のパブリックコメントは何に対して実施されたものか。

担当者：向日市水道ビジョンに対して行われた。

委員：他にはどうか。

担当者：今年度は、こうふくプラン向日、第2次地域福祉計画、新向日市環境基本計画等に対して実施している。

委員：広報紙の配布方法がポスティングに変わったが、配布日は1日と15日で決まっているのか。

担当者：広報は発行日の午前中までに配布できるよう、発行日の前日、前々日で配布を行っている。

委員：HP管理の研修はあるのか。また、庁内での情報のつながりで工夫していることはあるか。

担当者：HPは秘書広報課で管理しており、各課から寄せられた原稿を秘書広報課で編集して情報発信を行っている。この過程で各課との意思疎通を行っている。研修については、HPを管理している秘書広報課の担当者が研修を受けている。

委員：各施設のHP所有状況でないところが多い。これは市でコントロールしているわけではなく、それぞれが行っているのか。

担当者：各施設のHPについてはそれぞれが作成するかどうかを考えている。市民会館の予約状況については今後公開する予定である。各施設でのイベントについては市のHPで情報提供を行っている。

【仮判定】

委員全員A

理 由：さまざまなツールを用い、さらなる情報発信の充実に努めていただきたいことから。

④観光資源のネットワーク化

担当者：【施策の概要について説明】

委 員：平成24年度に作られたイベントルート以外にもルートはあるのか。

担当者：テーマに沿ってさまざまなルートを設定しており、HPに掲載している。

委 員：今後、さらにコース作りを進めていくのか、これまで設定したルートをより充実させていくのか。

担当者：ベースとなるルートはほぼできている。今後はハイキングイベント等と組み合わせ、いろいろなアレンジを実施していきたい。

委 員：例えば、戦国コースや幕末コースなど、向日市に眠っているさまざまな歴史遺産を生かしたコースを設定されてはどうか。

担当者：テーマに合わせてさまざまなコースを設定していきたい。

委 員：かぐやの夕べの参加人数はどの程度か。時期はいつか。

担当者：平成23年度は雨のため、約3,000人、平成24年度は約6,000人と過去最高であった。時期は毎年10月第3土曜日に行っている。

委 員：直販施設の設置検討については、商工会が実施するのか。

担当者：市と商工会がタイアップし、商工会が空き店舗の選定等を行って試験的に特産物の展示を行った。

委 員：イベントは市が中心になって行っているのか。民間の参加はどうか。

担当者：かぐやの夕べについては、NPO法人フロンティア協会や立命館大学、光華女子大学の学生とタイアップして行っている。また、市民ボランティアも募集して行っている。

委 員：イベントの企画や実施はどのように決めているのか。民間の意見はどうか。

担当者：観光協会の会員や市民から寄せられる意見を聴きながら、総会や理事会の中で決めていっている。平成24年度では、かぐやの夕べを盛り上げるため、竹細工やカラーキャンドルを作るなどのワークショップを実施したところである。

【仮判定】

委員全員A

理 由：ボランティアや観光協会等の協力のもと、資源をうまく活用して施策を進め、情報発信を行っていただきたいことから。

⑤北部新市街地ゾーンの整備

担当者：【施策の概要について説明】

委員：開発による人口増はどの程度か。

担当者：キリンビール京都工場跡地は750戸を限度としている。区画整理事業地区は計画人口として900人を見込んでいる。

委員：イオンモールの登記の所在地はどこになるのか。

担当者：京都市と向日市に跨っているが、主には京都市となる。

委員：前年度の課題について説明してほしい。

担当者：用途地域等の都市計画決定を行ったが、所有者ごとにさまざまな思いがあり、課題となった。

委員：イオンモールのオープン予定はいつか。

担当者：イオンモールからオープン予定が発表されていない。

委員：イオンモールオープンによる向日市の商業や人の流れ等に対する市の対応はどうか。

担当者：「中心市街地が衰退するのではないか」という声が上がっており、新市街地ゾーンから中心市街地への人の誘導方法について検討している。

委員：これまで京都から高槻までの間には大型商業施設がなかったが、近年できてきている。そのため、高槻駅前や桂駅前などの影響について、広域で議論していく必要がある。

担当者：設置予定のイオンモールは久御山のイオンの1.5～2倍を計画されている。

委員：相当の交通渋滞が発生するのではないか。

担当者：現在、向日市、京都市、京都府、公安委員会の4者で協議を行っているところである。しかし、イオンモールの店舗規模が明確になっていないため、発生交通量がつかみきれない状況である。今後、交通量が明確になった後、どのように対応していくかを調整していきたいと考えている。

委員：区画整理地区にマンションが建つともっと増えるのではないか。

担当者：計画では定住人口900人としているが、昼間人口は上回ることが考えられる。

【仮判定】

委員全員A

理由：目標とする将来の姿である「魅力と吸引力を持った新しい市街地のあるまち」を目指し、区画整理を終えた実績をあげていることから。

4 次回の委員会の開催日程について

第6回委員会は2月13日（水）午後2時から開催予定。